

Rotary

IMAGINE
ROTARY「変化する時代こそ、変わらない絆づくりを」
2022～2023年度 ジェニファー・ジョーンズ RI会長テーマ

WEEKLY BULLETIN

2022年8月4日(3424例会)(創立71周年) 呉ロータリークラブ週報 NO.3338

■呉RC 2022～2023年度テーマ 「変化する時代こそ、変わらない絆づくりを」

会 長	増 岡 真 一	幹 事	中 崎 誠	会長エレクト	大 上 功
副 会 長	太 刀 掛 祐 之	会 計	和 田 昭	会場監督	中 河 原 圭 司
直前会長	福 田 多 喜 二				

(事務局) 〒737-0045 呉市本通4丁目8-12 (例会場) 〒737-0051 呉市中央1丁目1-1 呉阪急ホテル
 呉商工会議所ビル南館7階 705号室 ☎(0823)20-1111 FAX(0823)20-1120
 ☎(0823)24-4411 FAX(0823)21-5692 (例会日時) 毎週木曜日 12:30～13:30
 E-mail▶kure3rc@urban.ne.jp HP/URL▶http://www.kurerotaryclub.jp My Rotary▶https://my.rotary.org/ja/user

今週のメインプログラム

ロータリー財団委員会担当例会
 2022-23 年度ロータリー財団
 グローバル補助金奨学生 鈴木 健斗様

次週のメインプログラム

8/11 (木) 休会
 8/18 (木) 呉 RC 電子化特別委員会担当例会

第 3423 例会記録【7月28日(木)】

【プログラム】 ◇増岡真一会長卓話

【出席率】 ◇前々回 84.06% 今回 88.24% (会員 72 名・欠席 8 名・免除 4 名)

【他クラブ出席者】 ◇下瀬君(7/20 北海道 2500 ロータリー E クラブ)海生(知)君(7/29 北海道 2500 ロータリー E クラブ)
2名

【欠席者】 ◇畦・海生(知)・武田(信)・武田(介)・寺坂・三宅・山村・山本君 8名

【出席免除者】 ◇大矢・奥川・海生(知)・武田(保)君 4名

【幹事報告】 ◇RI 第 2710 地区事務局 石川ガバナー…決議審議会決議案提出について
…2022 年規定審議会について

◇東広島 21 ロータリークラブ…2022-23 年度事業計画書が届いております。

◇(公財) 呉市文化振興財団…日本のポスター展 (配付)

◇石川良興ガバナー公式訪問・フォーラムの御案内 (配付)

◇増岡会長、中崎幹事、谷口会員が、昨年 9 月にお亡くなりになられた坂田健治さんのお墓を参拝
しました。

【委員会報告】 ◇道原出席・プログラム委員長…2021～2022 の最終出席率は 1 年平均で 93.12%でした。

【S.A.A】 ◇大之木精二・小兵衛君…天応地区の水害復旧工事の施工に当たった我がグループ企業が、地元
対し防災用備品を寄付したニュースが今日の中国新聞「呉・東広島版」において写真入りで報道
されました。僅かな事なにと恐縮しています。古川支社長さん、ご配慮ありがとうございました。

◇事業所設立記念日のご紹介

◎ニコニコ基金金額 12,000 円 (累計金額 256,000 円)

会長年度の懐旧と伝えたいこと

<第1部>



大之木 精二

～歴代会長からの伝言～

私が呉RCの第43代会長に就任したのは1992～93年のこと、其の年、吾がクラブからは3人目となるRI第2710地区ガバナーとして、真鍋欣良会員を送り出している。奇しくもその20年後に、今度は私自身が4人目のガバナーになろうとは、正に神のみぞ知るであった。

通例人は過去を振り返る時、ややもすれば自身の事績を美化して語ることが多い。私はその悪弊に陥らないよう極力淡々と記述する積りであるが、果たしてどうなることか。

此の年度は何を措いても、先ずは真鍋ガバナーに対するクラブ挙げてのサポートが喫緊の課題であったことに鑑み、私は会長ターゲットに「結束・成功・飛躍」を掲げた。クラブの「結束」が真鍋ガバナー年度を「成功」に導き、その成果が呉RCの更なる「飛躍」に繋がることを願ったものであった。

又当年度は呉RCにとって「常ならざる年」、即ち「異常な年」との認識を持つよう全会員にアピールし、ガバナー支援と共に例年通りのクラブ活動をも疎かにしないよう、一人二役、或いは三役を覚悟して欲しいと協力を求めたものだが、いまから思えば随分気負った雰囲気は何われ、汗顔の至りである。

何事に依らず私達にとって最大のパートナーは、吾が伴侶である。ロータリーに於ても然りで、最も身近な夫人こそが最高最大の協力者であり盟友

たるべしとの信念から、「夫人の集い」を始め家族同伴例会を年間6回行なったのも、恐らく呉RC有史以来のことではないだろうか。夫人の皆様は呉RCに馴染んで頂き、側面からクラブ結束への支援を期待したものであったが、それは此の年度の地区大会に於ける夫人グループの活躍に結実したとの記憶が、いまでも脳裏に鮮明に残っている。

会員同士が腹を割って本音で語り合う炉辺会合（Fire-side meeting）、当時は既に「家庭集会」と呼称が変っていたけれど、これも5回実施している。尤も故福田昭二先輩年度の12回には及びも付かないものの、当時は会員の家庭で行うのが慣例であったから、夫人方とも昵懇になる其の輪の広がり、どれ程親睦と結束を増進したか測り知れなかった。

繰り返すが、相次ぐこれらの企画は全てクラブの結束を確かなものにして、実り多い一年となることを願ってのことに他ならない。

職業奉仕の学習を深める為、長年驥尾に付してきた日本のロータリー界の泰斗、佐藤千寿パストガバナー（東京東RC）をお招きしてシンポジウムを開催したことや、吾がクラブの大之木隆男パストガバナーが、韓国第3650地区の地区大会にRI会長代理として出席した時のガバナーであったご縁から、其の後公私共に深い交流を続けた金鐘大氏を、吾が例会にお迎えしたこと等も忘れ得ぬ思い出であるが、紙面の都合により割愛する。

次号に続く